

東京 2020 大会の文化プログラムを先導する都のリーディングプロジェクト

東京キャラバン in 東北

NEWS!!

喝采を浴びたりオでの“文化混流”から帰国した
「東京キャラバン」が、いよいよ宮城・福島に登場!



2016年8月にリオで行った「文化混流」ワークショップの様子

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもあります。^(*)「東京キャラバン」とは、東京2020オリンピック・パラリンピックの文化プログラムを先導する東京都のリーディングプロジェクトとして、劇作家・演出家・役者である野田秀樹の発案により、多種多様なアーティストが出会い”文化混流“することで、新しい表現が生まれるというコンセプトを掲げた新たなムーブメントです。先日、オリンピック開催に湧くりオデジャネイロで、才能溢れる様々なジャンルの日本人アーティストが、現地のアーティストと出会い、国境、言語、文化や、それぞれのジャンルを超えた文化混流ワークショップおよび創作を行いました。そして、ブラジルを出発点とし、東京キャラバンは今後、宮城、福島をはじめ、国内外各地に出現し、「文化サーカス」を繰り広げていくとともに、国や地域を越えた交流を、継続的に図っていきます。

(*) オリンピック・パラリンピックの「文化プログラム」

オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典であると同時に、文化の祭典でもあります。国際オリンピック委員会（IOC）の「オリンピック憲章」には文化プログラムに関する条項があり、「OCOG（オリンピック競技大会組織委員会）は少なくともオリンピック村の開村から閉村までの期間、文化イベントのプログラムを催すものとする。当該プログラムはIOC理事会に提出し、事前に承認を得なければならない」（第5章・第39条）と定められています。東京大会では、スポーツ競技に先立ち、リオデジャネイロ2016オリンピック・パラリンピック競技大会後から2020年までの4年間にわたり開催されます。

参考文献：公益財団法人日本オリンピック委員会「オリンピック憲章 Olympic Charter 2015年版・英和対訳（2015年8月2日から有効）」

■お問い合わせ及び取材申込

東京キャラバン広報事務局 森 明暁子 090-8811-4373 press@tokyocaravan.jp
奥野 将徳 080-5685-6159 press@tokyocaravan.jp
※その他、プロジェクト全般に関しては 東京キャラバン制作 丹 典子 info@tokyocaravan.jp

■主催：東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）



東京都

ARTS COUNCIL TOKYO



「東京キャラバン」とは？



2015年に行った「公開ワークショップ」の様子（撮影：井上嘉和）



2016年8月にリオで行った「文化混流」ワークショップの様子

野田秀樹が提唱する「人と人が交わるところに『文化』が生まれる。」というコンセプトに賛同する多種多様なアーティストが出会い、国境／言語／文化／表現ジャンルを超え“文化混流”ワークショップを行い、共に創作していく中で、新たな生き生きとした「文化」が生まれる。そうして生まれた「文化」を持って、日本全国をキャラバンして回ることで、各地においてまた新たな「文化」が生まれていく… そんな文化ムーブメントが「東京キャラバン」です。

東京 2020オリンピック・パラリンピックの文化プログラムを先導する都のリーディングプロジェクトのひとつとして始まった本プロジェクトの第一歩として、2015年、野田秀樹とともに、現代アーティストの日比野克彦、彫刻家の名和晃平が呼びかけ、演劇・美術・能・ファッション・伝統芸能・現代アートなどが一堂に会し、駒沢オリンピック公園のステージにて「公開ワーク

ショップ」が実施され、大きな反響を呼びました。

2016年の東京キャラバンは、さまざまな土地で出会った人々とともに、この先の未来へと続く、文化の種を育てていききっかけとなる取り組みを行います。リオデジャネイロ 2016オリンピック・パラリンピックの開催に合わせて、8月にリオデジャネイロにて現地アーティストを交えた“文化混流”ワークショップを行いました。9月には宮城および福島にて現地アーティストや子供たち、伝統芸能の担い手らとともに、さらなる“文化混流”ワークショップを行う予定です。これらのワークショップを経て創作されたパフォーマンスが、10月の六本木アートナイトのメインステージにて公開されます。この活動は2017年以降も継続し、東京 2020大会へ向け、さらに活動を充実させながら、全国各地にてワークショップおよび公演を実施し、東京 2020大会以降の文化的な基盤を創ることを目指しています。

「東京キャラバン」コンセプト

「必要なのは、今、2020年に向けての『物語』、そして、その『物語』が2020年を越えても続いていけるような、そんな『物語』を作ることではないのか？ 1964年の東京オリンピックには、これで戦後が終わっていくのだ、日本がいよいよ世界に向かって復帰できるのだ、といった確固たる物語があったように思う。今回の東京オリンピックには、今、日本人を動かすべき、そうした大義名分のような『物語』を簡単に見つけることは難しいだろう。ただ、ある程度の大きさの『物語』を積み重ねることで、人々の「気運」を作ることはできる。

そして、盛り上がっていった「気運」の中からは、壮大な物語は生まれないと思う。（中略）そして、この東京キャラバンが日本中にばらまいた、目の前にある文化＝ライブの面白さ。それを経験した小さな子供たちの心の中に種は撒かれる。インターネットの普及で偏りがちになった文化とは、全く違う姿、目の前で息をしている人間が生み出す文化への興味を示してくれるようになり、その中から、新たな形態の文化を生み出すとき、この「東京キャラバン」という物語は、本当に壮大な物語になるだろう。」

野田秀樹（「東京キャラバン」構想より）

「東京キャラバン in 東北」開催概要

1. 宮城県

期間：2016年9月3日（土）・4日（日）11時～18時

場所：宮城県仙台市立沖野東小学校

2. 福島県

日時：2016年9月17日（土）・18日（日）11時～18時

場所：福島県相馬市 など

<宮城&福島ワークショップ>

東京キャラバンのコンセプトである、「人と人との出会いによる“文化”創造」をもとめ、日本全国津々浦々にキャラバンし、文化サーカスを開催するための最初の第一歩として、リオデジャネイロからの熱気を携え帰国した東京キャラバン参加アーティストらが、震災により甚大な被害を受けた宮城や福島に赴く。

リオで観客を熱狂させた東京スカパラダイスオーケストラや、2015年の駒沢オリンピック公園での「東京キャラバン～プロローグ～」で観客を幻想の世界にいざなった松たか子ら、東京キャラバンアーティストが、地元の小学生吹奏楽部、ライブペインター・アーティスト、そして継承が困難な伝統芸能やお祭りの担い手など、それぞれの表現の枠を超えた文化と出会い、交わりながら、新たに生み出される表現を創作するワークショップの現場をまるごと公開いたします。

「東京キャラバン in 東北」参加アーティスト

東京スカパラダイスオーケストラ（ミュージシャン） ※3日のみ参加

松たか子（女優・歌手） ※18日のみ参加

津村禮次郎（能楽師・観世流シテ方／観世流緑泉会代表、重要無形文化財保持者）

井手茂太（振付家、ダンサー／イデビアン・クルー主宰）

“東京キャラバン” アンサンブル、

野田秀樹（劇作家・演出家・役者・東京芸術劇場芸術監督）ほか